

「ソーシャルファーム (社会的企業)」とは？

～労働市場で不利な立場の人たちを
雇用するための新しいビジネス～

ソーシャルファームは、ソーシャルインクルージョン*の理念のもとに、障害のある人や何らかの理由で働きたいのに働けないでいる労働市場で不利な立場の人たちを雇用するためにつくられた新たなビジネス形態です。イタリアの精神病院解体により、地域に放り出された精神障害者に対して新たな働く場づくりが必要になったことから始まったといわれています。現在ではヨーロッパ全土やイギリスで発展してきており、2万社を超えています。韓国でも新しい雇用創出施策として制度化されました。

その特徴としては、

- ①障害のある人や労働市場で不利な立場の人たちを相当数雇用している
- ②企業と同じビジネス手法
- ③利益を事業そのものに還元する
- ④すべての労働者は同等の権利と義務をもつ
- ⑤地域の活性化に貢献でき、住民との関係づくりにもつながる

などがあげられます。

わが国でも、2008年にソーシャルファームの発展を支援することとネットワークづくりを目的に、「ソーシャルファームジャパン」（代表：炭谷茂氏）が設立され、現在全国に2000社設立を目標として活動しています（→p.74）。

*ソーシャルインクルージョンとは…社会的包摂。すべての人が社会で孤立したり排除されたりすることがないように擁護し、社会の一員として包み支え合うという理念。

事例

ソーシャルファームで働く——木村さんの例

木村さんは、20代から統合失調症で入院をくり返してきました。その間、6回の転職をくり返しながら、会社の一員としてコツコツと働いてきましたが、指示されることを単にこなしていればよい仕事にやりがいを感じたことはなく、もんもんとした日々を過ごしていました。

そのころ、近所に弁当屋が開店し、同じ病院に通う仲間が働き始めました。自宅から近かったので、弁当を買いに立ち寄りたりする中で、そこで働いている人たちの生き生きとした姿に興味をもちました。店の人に聞くと、障害のある人だけでなく、さまざまな理由で働きたくても働く機会が得られなかった人たちが集まり、「ソーシャルファーム」を目指して事業を起こしたのだということです。毎月の収支報告は全員に報告されるそうで、事業経営に一人ひとりが役割と責任をもって参加していることを感じました。

木村さんは、そこでの体験実習に参加しました。一緒に働いてみて、みんなが主体的に事業を発展させていくことに取り組んでいることを実感し、転職を決意しました。

ソーシャルファームが今後、障害者の新たな雇用を生み出す原動力になっていくといいわね。

